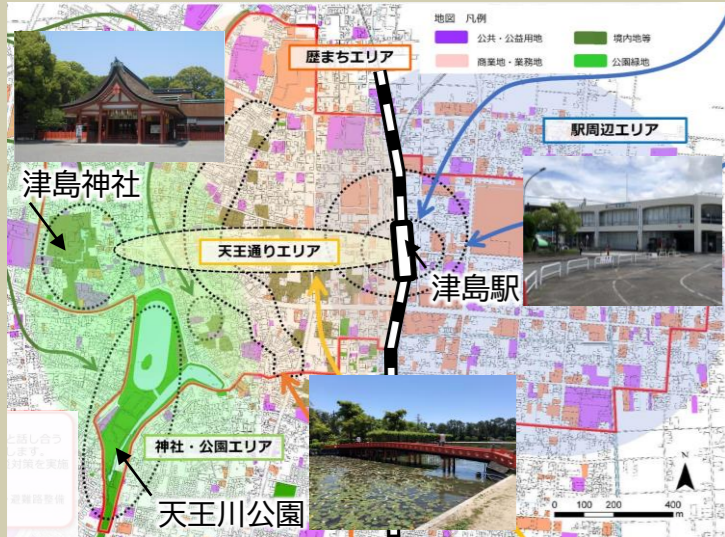


◎津島駅周辺の状況

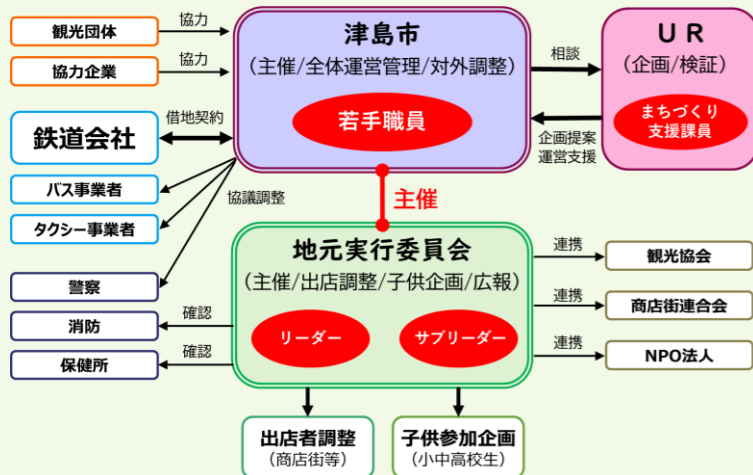
津島駅周辺は市の中心市街地であり、市役所やスーパー、津島神社等が立地し、コンパクトで車に頼らずに生活できるエリアである。その正面玄関に位置する津島駅では、整備から50年以上が経過し、市の最上位計画となる総合計画の市民アンケートでは「市の顔となる駅前空間」が求められている。



津島市立地適正化計画(案)より

◎社会実験の実施体制

市とURは企画段階から、**将来を担う若手主導(30代)**を進めることを大切にしてきた。地元で実行委員会を立ち上げた**若いリーダー**とは、対外調整を市、企画運営を実行委員会などと役割分担を行い、徐々に関係者を巻き込みながら、**初めての駅前社会実験**に取り組んだ。



津島駅前社会実験

えきまえVIP

DATE : 2021.10.16 (Sat) - 17 (Sun) 10:00~16:00

市民が 好きになる・思い出となる・誇りを持てる 駅前空間を創っていく。

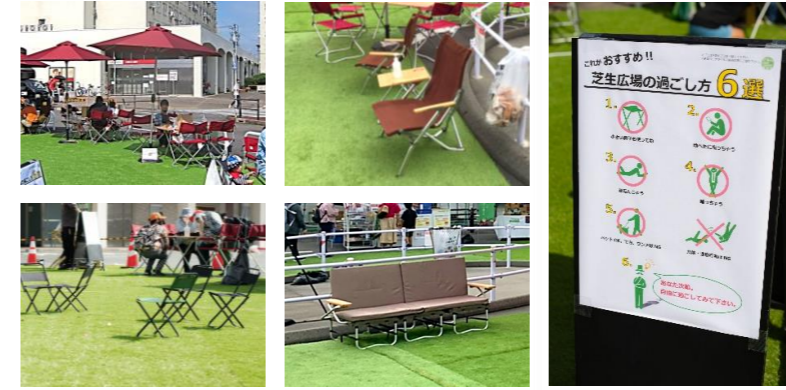
これは、そのための **“目に見える第一歩”** である。

◎広場空間のデザイン

アスファルトから“緑”へ圧倒的な視覚効果をもたらす人工芝(芝丈35mm)を敷き詰め、パラソル付きのテーブルや動かしやすいローチェア・ミニチェア、広めのソファなど大小様々なギアを設置。

普段、バスやタクシー、送迎者などの車中心の空間に座る、くつろぐといった使われる空間を創出した。

また、「芝生広場の過ごし方」を看板で伝えることで自由な使い方を誘導している。



◎週末のお出かけ(駅西)



周辺住民が週末にお出かけしたくなるような空間を目指し、ゆったりくつろげる芝生の広場と「えきまえマルシェ」を開催。

一部天王通りのお店もポップアップとして出店するなど、商店街とも連携している。



◎魅力の発信(中間)

津島の魅力を伝える案内所や、**写真を撮りたくなる空間**を設置。高架下では手作りWSを開催。



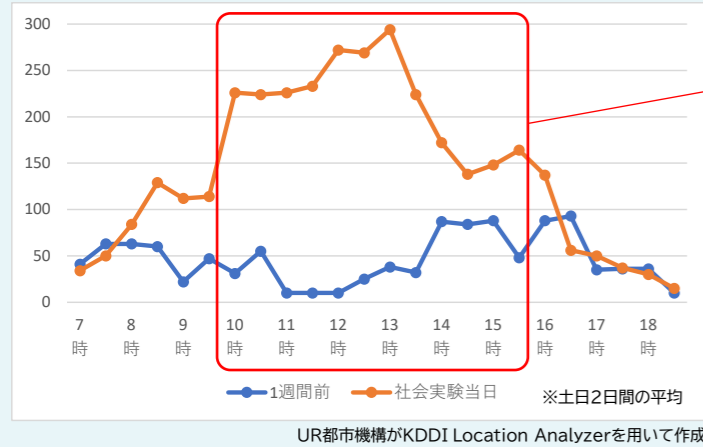
◎市民の声

「こんな空間あったらいいな♪」をシールで投票して、見える化。



◎来場者の反響

◆来場者数 (15分以上の滞在者数)



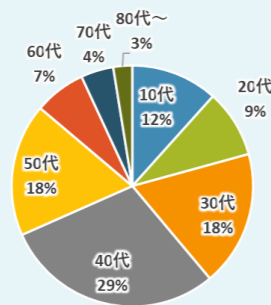
・平時：約 520人
 ・実験時：約2,590人 **約5倍**
1日当たり 2,070人増加

スマホの位置情報をもとに、15分以上の滞在者数を一週間前の同日と比較。
 社会実験時間の10時～16時の間、滞在者数は**1日当たり約2,000人増加、平時の約5倍**になり、駅前ポテンシャルを確認できた。

◆来場者アンケート (N=301)

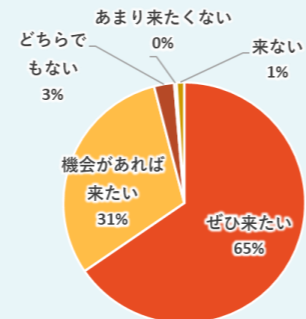
Q.年齢

来場者の年代は、「30代～50代」が65%と多いが、**10代から80代以上まで多様な世代**が訪れた。



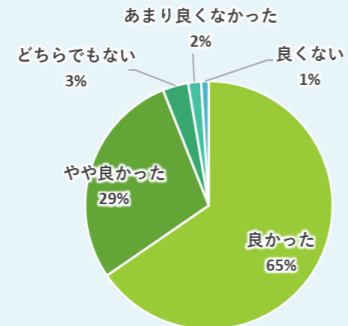
Q.また来たい？

次回の社会実験にも「ぜひ来たい」「機会があれば来たい」が**96%**と多く、たくさんの人から「いいね」の高評価を得た。



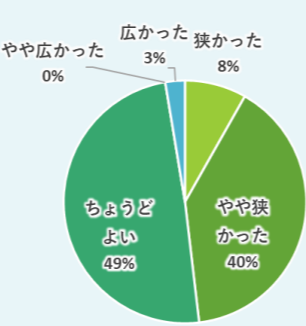
Q.芝生広場の印象

人工芝やイス・テーブルを設置した芝生広場の印象は、「良かった」「やや良かった」が**94%**と多く、その必要性を確認できた。



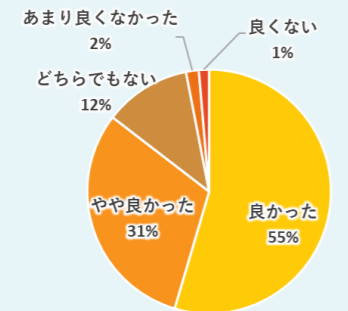
Q.芝生広場の広さ

芝生広場の大きさは、東西ともに**200㎡程度**であったが、「ちょうどよい」が**49%**。狭いという声もあるが、**小さくても十分満足度が得られた**。



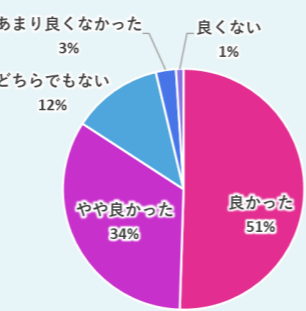
Q.子どもの遊び場

子ども縁日を開催した芝生の遊び場は、「良かった」「やや良かった」が**86%**。特に親子世代から子どもの遊び場を求める声が多かった。



Q.飲食・物販

キッチンカーやタープ出店による、飲食や物販は、「良かった」「やや良かった」が**85%**。特に飲食は、現状も少なく、求める声が多かった。



◆来場者の生の声

楽しかった。ぜひまた来たい。(10代・男性)

定期的開催して欲しい。(20代・男性)

人工芝がすごく気持ちよくてのびのびとできた。(40代・女性)

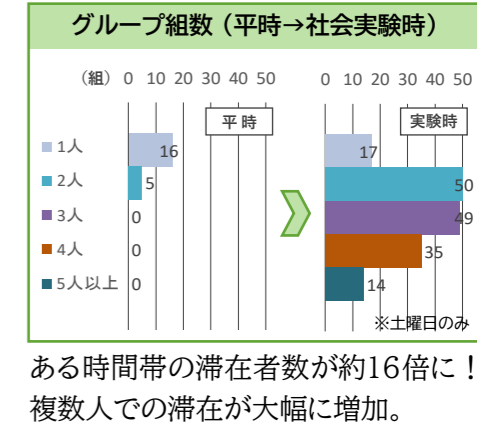
小さい頃から慣れ親しんだ津島駅がよりよい環境になることをとても期待している。(30代・女性)

津島駅が生まれ変わったように賑わっていて大変うれしい。(60代・男性)

今まであまり来ることがなかったが、参加してみて印象が変わった。(10代・女性)

津島の将来が楽しみになった。(60代・女性)

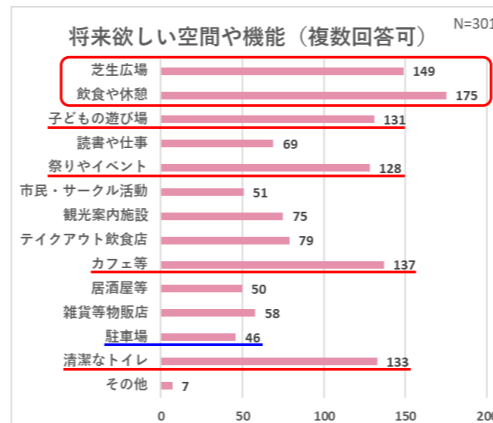
◎様々なアクティビティ



◎今回の成果と今後の展開

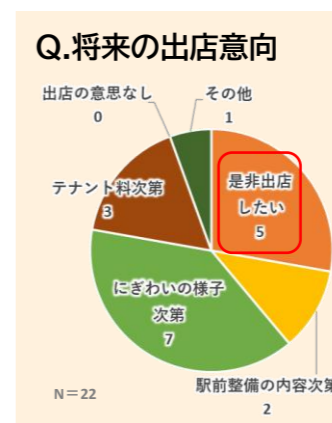
◆市民ニーズの把握

市民の体験をもとに生の声を収集し、実態に即したニーズを把握できた。今後、**将来の駅前計画に反映**していく。



◆出店者の声

駅前整備された場合に、「是非出店したい」という**お店との繋がりが**できた。



◆関係者の意識の変化

「できっこない。」 → 「やればできる！」

駅前での社会実験は初めてで、**ゼロをイチにする挑戦**だった。実績を作ることで、**次も取組やすくなり**、成功体験を共有したことで、関係者のまちづくりへの**意識が前向き**に。

◆継続から実装へ

2日 → 1週間 → 1ヶ月 → 1年 →

将来的には駅前整備をして**人の空間を確保**し、日常的に使える**ルール・体制作り**も同時に必要。そのため、**期間を延ばしながら、実験を繰り返し**、日常を作り上げていく。